

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	三重県
再委託先	鈴鹿市

## 1 事業推進の体制

実践中心校	加佐登小学校、愛宕小学校、白子小学校、長太小学校、稲生小学校、桜島小学校、神戸小学校、玉垣小学校
協力校	市内全小中学校
関係機関	鈴鹿市学校給食センター等

## 2 具体的な取組等について

テーマ	小学校、中学校9年間を見通した食に関する指導の構築を目指して												
評価指標	朝食を毎朝食べる割合と食べない傾向群												
効果	【朝食を毎朝食べる割合】												
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小学校計	中学校計	全体合計
	H2411月	879	890	887	897	876	873	866	836	830	884	844	867
	H2512月	901	896	877	872	883	862	842	829	810	882	827	862
	増減	22	06	-10	-26	07	-10	-24	-07	-20	-02	-17	-05
	【朝ご飯を食べない傾向群】（「全く食べない」「食べない日が多い」の合計）												
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小学校計	中学校計	全体合計
	H2411月	28	37	42	50	47	48	73	65	77	42	72	53
	H2512月	27	37	42	50	47	47	73	65	78	42	71	53
	増減	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	-0.1	0.0

小学校低学年では、改善されているが、学年が上がるに連れ、朝ごはんを食べない児童生徒の割合は高くなり、昨年度より増加傾向にある。ただし、朝ごはんを食べない児童生徒の割合は若干、減少している。中学生への朝食指導に課題がある。

### （取組状況）

#### （1）小学校において、栄養教諭と担任が連携した食に関する指導の充実を図る

##### ① 各教科等における食に関する指導の充実

栄養教諭と担任が連携し、学校給食を生かし、関連する教科において指導の充実を図る。

【実践例1】鈴鹿市の食べ物をたんけんしよう（小学第3学年：社会科）



箱の中に鈴鹿産の食べ物が入っています。



食べ物の産地を地図で確認します。



授業後、給食の時間に鈴鹿市産の食べ物を確かめます。

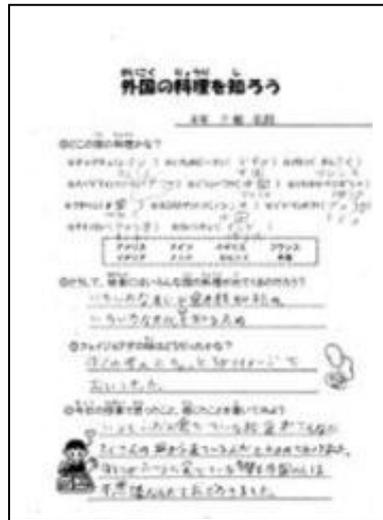
【子どもの感想】これから、給食に地いきで作られた食べ物が出てきたら、味わって食べたいと思いました。理由は、地いきでとれた物は全部新せんだし、新せんな物は味わって食べないと、それにおいしく味わえないからです。なので、これからは、地いきの物が出たら、感しゃして、そしてよーく味わって食べていきたいなあとと思いました。

【実践例2】外国の料理を知ろう（小学第4学年：特別活動）

学校給食を活用し、いろいろな国の料理とその食材に興味を持たせ、背景にある文化の違いを理解させた。また、さまざまな味覚を育てるために学校給食の献立に入っていることにも気づかせた。1月の給食週間のテーマが「豆」であることを見通し、各国の豆料理を紹介した。



栄養教諭が作ったフェイジョアダ（ブラジルの豆料理）を試食しました。



授業で使用したワークシート

【実践例3】

望ましい食習慣について知ろう（小学第6学年：保健及び家庭）

食生活と生活習慣病の関わりについて、栄養教諭の手作り教材を活用し、一日に必要な野菜の量を理解させ、望ましい食生活について考える機会とした。



手作り教材を使って生活習慣病の原因を考えました。



給食週間に合わせた食育コーナーの掲示の工夫。フェイジョアダに使われる赤豆の実際も展示してあります。

②食育関連日を活用した取組

【実践例1】給食記念日

低学年、高学年に各1個ずつハート型のにんじんを給食に入れ、発見者を放送で発表し、「ハートにんじん発見者証明書」を渡した。2月分の給食だよりもに掲載した。

どの献立に入っているの？

- 24日（金）すきやきふうに
- 27日（月）ポークビーンズ
- 28日（火）キーマカレー
- 29日（水）お休み（にんじんがないの）
- 30日（木）五目煮



③日常の取組

【実践例1】給食の食材に児童の育てた食物を利用



セイロンウリ（ヘビウリ）



【実践例2】授業に関わる

小学第4学年：国語科「一つの花」

第3学年：社会科「戦争中の暮らし」

担任と連携し、栄養教諭が戦争の食べ物を作り、戦争中の厳しい時代を考えさせた。



すべりひゆ



サツマイモのつる



戦争中の服装も  
してくれました。



【実践例3】食育コーナーの工夫



6月給食月間



11月地物一番給食の日



養護と連携

④家庭に向けての取組

【実践例1】給食試食会、親子料理教室



給食試食会



親子料理教室



【内容】

- ・給食ができるまで
- ・給食の安全・安心
- ・地域の食材の活用等
- ・学校給食のねらい 等

昨年度は、洋食、今年度は和食メニューと、継続的、計画的に取り組んでいます。

(2) 中学校において、栄養教諭が中心となり、食に関する指導の方策を探る

①「食に関する指導」推進協議会において中学校における指導の課題について明らかにし先進地視察に赴く。

先進地：滋賀県近江八幡市

- ・近江八幡市立学校給食センター
- ・近江八幡市立八幡中学校
- ・近江八幡市立八幡西中学校



先進地視察の様子

②ワーキンググループでの学習会（年間6回）

栄養教諭等が集まり、学習会を行い、力量を高める。教育委員会としては、各学校の食育についての実態把握をし、それを基に取組の改善を行う。とくに、今年度は、中学校における授業プラン（試案）を作成した。

【学習会での内容】

学習指導要領と教科書、実践交流、指導案作成、指導資料作成、教材研究、工場見学、実習等



**【実践例1】**

中学校における授業プラン（試案）の作成

○第1学年

題材名「バランスのとれた食生活を考えよう（関連教科：技術・家庭科）」

○第2学年

題材名「地域の食文化を知ろう」（関連教科：技術・家庭科）」

○第3学年

題材名「生活習慣病とその予防」（関連教科：保健体育科）」

③中学校において、作成した授業プラン（試案）に基づき授業を行う。

第3学年 題材名「生活習慣病とその予防」

（関連教科：保健体育科）」

コンビニでどのように食べ物を選べばよいか、自分の体と食べられる量を考えて選ぶことができるよう目指した授業。学校での食育は3年生が最後。高校や社会人になって、学んだことを、これからの生活に生かすことが本当の食育である。



④小学校への給食見学

中学校の学校長や教職員が小学校における学校給食の様子を見学した。教師の指導や教職員の協力等、学校全体で意思統一して学校給食を進めていくことの大切さを確認できた。



(3) 学校長、食育担当者が中心となり、食に関する指導が学校全体の取組になることを目指す

①食に関する指導推進協議会や校長会等において、中学校への取組について周知した

②食に関する指導推進協議会を行い、実践事例を紹介したり、各校の取組の情報交換を行ったりした。今年度は第64回全国学校給食研究協議大会について、栄養教諭が報告をした。

〈食育担当者の感想〉

年度初めの給食指導の統一や教科との連携のとり方、小中学校の連携に大切さ等を改めて学ばせていただきました。来年度に向けて、栄養教諭や生活指導担当等とも、話をしておきたいと思います。



③食に関する指導の日常化

栄養教諭だけでなく、全ての教諭が食に関する指導を日常的に行えるよう、栄養教諭等の意見を取り入れ、食に関する指導にかかわる教材や指導資料を購入し、貸し出しを行った。平成24年度に作成した「食に関する指導実践資料集」に食育関連教材一覧を追録し、活用しやすくした。



平成24年度作成  
食に関する指導実践資料集

年度	指導計画	実施状況
1学期	健康診断実施状況	健康診断実施率
2学期	食育指導計画	食育指導実施率
3学期	食育指導計画	食育指導実施率
4学期	食育指導計画	食育指導実施率
5学期	食育指導計画	食育指導実施率
6学期	食育指導計画	食育指導実施率

年間指導計画（小学校）



指導資料、教材一覧  
授業プラン（中学校）

### 3 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

残量調査について、同一のおかずで比べると、残量が多い煮物について、全体的に残量が減った。12月に食育担当者会を集め、食に関する指導推進協議会を開催した。学校全体で給食指導について共通理解し、統一した指導をしていくことの大切さを話し合ったことが反映されたとも考えられる。担当者を中心に、学校全体で食に関する指導を進めていくことの大切さを確認できた。

【残量調査】 残量の多いおかず ～鈴鹿市学校給食センターより～ [単位%]

ボイルキャベツ	12.20 (6月)	9.08 (1月)
五目煮	13.08 (5月)	7.94 (1月)
五目きんぴら	7.39 (6月)	6.00 (11月)
アジの煮つけ	6.94 (5月)	8.00 (11月)
ししゃもの磯辺揚げ	8.73 (11月)	7.53 (1月)

### 4 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 栄養教諭未配置校で実践していくためには、各学校が学校長の理解のもと、食育担当者を中心に推進していく方法について、検討していく必要がある。そのために、①学校全体で学級担任を中心に進めていく食育と、②栄養教諭の専門性を生かした食育、この二つについて、住み分けをはっきりして、取り組んでいかなければならない。
- ・ 中学校においては朝食摂取状況の改善が図れなかったことから、発達の段階に応じた食育に関する知識や能力の定着が図れるよう、今後も教科と関連付けながら、中学校における食に関する指導について検討していきたい。
- ・ 食に関する指導の充実は、子どもの生活習慣や食習慣の改善と密接に関連していることから、就学前の指導も大切である。そのため、小中学校だけでなく、幼稚園との連携も視野に入れていく必要がある。また、望ましい食習慣の定着を図るためには、家庭と連携し、粘り強く継続した指導を行うことが重要である。